


タイトル	食害等により荒廃が進む森林での自然再生事業の実施	
概要	立地環境に適合した広葉樹を主体にした植樹を行い生物多様性の保全等を目的とした森林を再生。また合わせて地域性苗木の生産、新規防鹿柵の設置などを行う。	
管理方法・技術的視点	<p>食害等により荒廃が進む大台町の森林において、広葉樹植栽を主体とする自然再生事業を推進。地域性苗木生産・販売体制の強化、新規防鹿柵の検討・実証(、植栽苗木のモニタリング)等を実施している。</p> <p>施業方法として次を行っている。</p> <p>(1) 立地に適した樹種の選定と組み合わせ: 立地環境や隣り合う樹木との関係性を考慮した植栽を実施。</p> <p>(2) 不規則な植え方: 樹木特性と植樹場所の条件を考慮し、集中的に植える場所を作るなど不規則な植栽を実施。</p> <p>(3) 巣植えによる初期成長の促進: 苗木を3本1組で植えることを基本とする「巣植え」を実施。成長の促進を促すとともに微気象条件を緩和し菌根を共有するなどの効果を得られる。</p> <p>(4) 地域性苗木の使用: 植樹する地域近くで採取された種で3年かけて苗木を生産し、植栽に使用。現在約130種類、4万本を育苗している。</p> <p>(5) 新規防鹿柵(パッチディフェンス)の導入: 鹿の生態的特徴を利用し、「檻」と思わせるような小さい囲みを設置することで苗木を保護する。</p>	
備考	町と組合ではオフセット・クレジット事業にも取り組んでおり、地域の森林の保全整備の促進、大学との連携、交流活動の展開などに役立っている。	<p>パッチディフェンスの導入状況</p> 
場所・主体	三重県多気郡大台町・宮川森林組合	
URL等	http://www.miyagawa-shinrin.jp/	